

令和3年度第1回光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和3年8月26日（木）午後1時30分～午後3時05分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール及び2階会議室

3 出席者

(1) 構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会 教育長 伊藤 幸子

〃 教育委員 河村 博明

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 平岡 いづみ

〃 教育委員 武田 伸治

(2) 説明員

小中一貫やまと学園 大和中学校長 河本 政之

〃 塩田小学校長 鎌田 哲治

〃 三輪小学校長 品川 和之

〃 岩田小学校長 生田 光徳

学校教育課 教育企画担当 佐々木 幸治

(3) 関係者

升教育総務課長、原田学校教育課長、塩田学校教育課主幹、国広文化・社会教育課長兼人権教育課長、村崎体育課長、前田図書館長、清水学校給食センター所長、久岡教育総務課経理係長、吉本教育総務課主査、村上教育開発研究所主任研究員、永光教育企画担当（学校教育課）

4 傍聴者

3名（市民1名、教育関係者2名）

5 次 第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

第2次光市教育大綱（案）について

閉 会

6 議事録（要旨）

開 会

(1) 市長あいさつ

現行の教育大綱が今年度で終期を迎えることから、1月の会議で新しい教育大綱について皆様からご意見をいただきましたが、本日も、改めてご意見を伺おうとするものです。

また、本日は、第2次光市教育大綱（案）の教育ブランドから、大和中学校区における小中一貫教育の取組を紹介していただき、私たちの一つの目標とする小中一貫校の様子を皆様方と共有したいと思います。

新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない状況のなか、3密を避けながら対策を講じたいところですが、それでも市政を前進させなければならないと思っており、特に教育については、強い思いを持っております。

第2次光市教育大綱（案）にあります3つのキーワード、「生きる力」、「グローバルな視点」、「生き生きと暮らす人」のように、私たちは子どもたちに対する大きな夢を抱いております。そして、私は彼ら子どもたちの鞆の中に3つのことを入れておいてほしいと思っております。1つ目は、やはり「日本語」、2つ目は「デジタル化」、3つ目は「脱炭素」で、子ども達には、これらを意識しつつ、私たちは次の時代を生きていくのだと決意してもらいたいと望んでいるところです。

本日は、皆様からは是非、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(2) 議 事

第2次光市教育大綱（案）について

ア 第2次光市教育大綱（案）について

説明者：伊藤 幸子（教育長）

イ やまと学園小中一貫教育の取組について

(ア) やまと学園小中一貫教育推進ビジョン

説明者：河本 政之（大和中学校長）

(イ) やまと学園小中一貫教育における主な取組について

説明者：佐々木 幸治（教育企画担当）

（ウ）今後の展望

説明者：河本 政之（大和中学校長）

【質疑・意見等】

（構成員）

第2次光市教育大綱（案）について、現行の教育大綱と比べると、幼保小連携、小・小連携、小・中連携の記載がありません。市内では2つの中学校区が4小1中ですので、小・小連携の記載が必要ではないかと思っています。

それから、先程ご紹介いただいた大和中学校区の合唱について、4小1中の合同練習には、相当なエネルギーが必要ではなかったかと思います。そこでお伺いしたいのは、この取組に際し、小学校の子ども達や小中学校の先生方の意識の変化、また、小中学校がお互いの立場を尊重しながら練習に取り組まれたと思いますが、こうしたこともお聞かせいただければと思います。

（構成員）

ご指摘は、6ページの教育ブランドひかりの「次世代型コミュニティ・スクール」において、コミュニティ・スクールを中心に記載しており、幼保、小・中、高等学校までと掲げておりますが、ここに、もう少し小・小のことを書き加えてみてはというご意見でございましたが、思いとしてはございますので、これも表記したいと考えております。

（説明員）

中学校の教員の感覚で申しますと、実際に小学校の子どもを目の前にして指導することで、子どもに対する情熱が確実に高まりました。来年、再来年に大和中学校に入学する子どもという視点で目の前の子どもを見ることで効果が出ていると考えています。

（説明員）

小学校の教員は全科目をそれぞれで教えておりますが、中学校と比べると専門的に深い指導が難しいところがあります。この度、指導いただいた先生の様子を見ると、専門的な立場から、主体的な歌い方、歌に対する意欲やどんなことを歌うのかということの引き出し方など、私も見ておりましたが、「大きな声で歌いなさい」という指導は一切されず、情緒面を引き出されることで自然に声が出てくるような指導をされていました。小学校では「もうちょっと大きな声をだしなさい」というような指導をすることがありますが、小学校教員にとっては、そのような専門的な指導に触れることができたことがよかったと思っています。

(構成員)

まず、やまと学園の取組についての感想ですが、少ない練習時間であれだけの一体感が出ているということは、小中一貫は始まったばかりですが、大変素晴らしく、練習の仕方や指導方法も踏み込んだ形で上手くできているということが分かりました。

次に、第2次光市教育大綱(案)の資料1-2の重点プロジェクトにある「次世代型コミュニティ・スクール」の部分について、小・中連携は上手くいっていると感じていますが、高校との連携・協働教育をどのように進めていくかということが課題であると思います。光市の小・中学生は、地域行事への参加など、全国的にも高い評価がでておりますが、小・中合同の勉強会に参加していた高校生に、高校でのコミュニティ・スクールについて質問したところ、中学校の時の勢いそのままに高校に入ったものの、光市から離れた高校であることから、地域性の差もあって、挨拶ひとつをとっても、戸惑うことがあるとのことでした。

せっかく中学校で高い水準まで上がった高校生がいるという現状で、光市の高校生だけに限定するのではなく、市から育った高校生も地域のコミュニティ・スクールに入れて活躍の場を持たせるといいのではないかと思います。知らない地域では少し戸惑うこともありますので、小・中と高校生との関わりも考えていければよいのではないのでしょうか。

(説明員)

高等学校のコミュニティ・スクールは小・中学校よりも後になって、去年か一昨年くらいに始まったもので、今、県の教育委員会が支援しながら充実策を進めている現状がございますので、学校自体のコミュニティ・スクールの成熟度は、もうしばらくすれば出てくるものと考えています。

先程のご意見は、我々としてはとても嬉しいものでございます。高等学校に進んだ中学校の卒業生が、本当だったらもっとやりたいけれども、やれる場がないということをよく聞きますが、それはつまり生徒の方にもその資質・能力が身につけてきている証拠であり、私たちにとっては嬉しい気がします。

それでは、どこにその活躍の場を見出してあげるかという、例えば、大和中学校の事例紹介でありました子ども部会では、卒業した高校生も入っています。浅江地区でも入っています。高校生の発言は非常に良いものです。なぜなら、去年、一昨年まで当事者だったからで、今、外から見たときに客観的に物事を見ることができるので、とても良い発言をしてくれます。各中学校で、高校生も一緒にやろうという動きは出てきており、私もそれはどんどん進めていくべきだと思っています。

高等学校との連携をどうしたらいいだろうかと考えておりましたが、そういった形で進めていくべきというアイデアをいただいたと思っています。ありがとうございました。

(構成員)

私の立場で考えますと、高校のコミュニティ・スクールでは、何か物を作って、例えば光市の海の幸を使った食品を作って光市を活性化していくなどの取組を、高校生と光市がコミュニティと一緒にできていただければよいと思います。高校生になるとこのような目線も必要になるのではないかと思いますし、高校生への期待でもあります。

(構成員)

まず、やまと学園の合唱に大変感動して涙が出てきます。小・中学校の先生方にお礼を申し上げたいと思います。恐らく、限られた時間、また、コロナ禍にあって大変だったと思いますが、あそこまで完成されたものを見せていただいて、小中一貫に関するいろいろな文章などを見せていただくよりも、この映像を見せていただくだけでとても伝わるものがあると思います。

それから、子どもたち自身も自信になったと思いますし、やまと学園のリーフレットにありますように、自分が好きということがスタートラインで、それが形になって、自分が好き、人が好きというものがよく出ていたと感動しました。

この映像は、生徒や保護者の皆さんが見ることはできるのでしょうか？

(構成員)

実は、これは、市民ホールで開催することができなかった令和3年度教育フォーラムのプログラムの一つです。教育フォーラム自体の内容をDVDに収録して皆様に見ていただくとするもので、ここにありますようなケース付きのDVDをお届けいたします。

(構成員)

ありがとうございます。保護者の立場としては、本当に見たいと思う映像でした。

もうひとつ、ICTを活用した教育の項目に関係しますが、実際に体験したこととして、今回、高齢者のコロナのワクチン接種について、予約の電話が殺到したり、ネットを使うことが高齢者自身も難しかったりという時に、遠方にお住いのお孫さんや近所でスマートフォンに詳しい方が予約をしてくださったということ、これが、いつでも、どこでも、だれとでも、ということなのだ実感しました。

(構成員)

デジタル格差に対する子どもたちからの支援は、私たちも非常に助かっています。

中学生がおじいさん、おばあさんに教えるということは本当に素晴らしいことだと思います。

(構成員)

小中一貫校を教育委員会でも視察させていただいて、光市でも取り組むべきだとずっと感じておりました。小中一貫の学校に行くと、その学校の雰囲気がとても柔らかく感じます。子どもから大人と一緒に生活しているといった感じで、中学生は小学生をいたわるといった雰囲気を実際に感じたものです。

中学生になると、いろいろと現実を知ってきますので、自己肯定感がどんどん下がっていくものですが、小中一貫校では、小さい子どもたちが自分たちを頼ってきますので、中学生の自己肯定感がものすごく上がってくると聞いています。

いま、合唱の映像を見せていただいて、いろいろな指標などを見るよりも、この映像が全てなのかなと思います。ちょっとおしゃまな小学生を中学生が包み込むような感じを受けました。これがまさに光市が教育大綱に沿って進めていく理想の形の一つであって、自分が好き、人が好きという、まさにこれのことと思いました。

光市はコミュニティ・スクールで全国に名をとどろかせましたが、小中一貫教育でも、全国の範になるのではないかと感じました。

校長先生におかれましては、子どもたちに大変感動したとお伝えいただければと思います。

(構成員)

皆様方から、大変貴重なご意見をいただきました。今後、多少の調整はあるとは思いますが、第2次光市教育大綱(案)について、字句の修正も含めて、この方向で進めていくことにご了承いただけますでしょうか？

————— 他の構成員 了 —————

ありがとうございました。ご了承をいただきましたので、12月議会への報告など、今後の手続きを進めてまいります。

午後3時05分終了